

山形県市民リポーターだより
第5回

活況ある

大館市づくり

リポーター 滝沢武雄(大滝)

今、全国各地で「まち興し」や「まちづくり」が盛んに進められています。まち興しやまちづくりの方策については、人それぞれいろいろな考え方があることでしょう。

今回は、このコーナーをお借りして、私の「大館市づくり」についての考えを述べさせていただきます。

これまでの

大館市は…

大館市は、鉱業・林業・農業等の安定した経済基盤に支えられ、行政、市民共に焦りのない生活を送ってきました。恵まれたこの経済・生活が、昭和四十年代からの木材・鉱山不況のあおりで徐々に衰退し、人口もとうとう七万人を割ってしまいました。

行政・市民が一体となって努力をした結果、「不況」という言葉は最近あまり聞かれませんが、しかし、人口流出に歯止めをかけるための良策は、まだ見いだされていないようです。

そのための一つの方法として、私は観光開発を提案したいと思います。

観光の現状は…

私は幸いにして、これまでのいろいろな観光地へ行く機会に恵まれました。それらの土地と我が市を比較すると、我が市はとうも見劣りしてなりません。と言うのは、観光の核となる施設が無い点、それに観光資源の整備不足(見学に行っても説明板や案内板などが設けられてない)などが挙げられるからです。

市民の人たちから「よそから大館へ遊びに来てもらっても、見せたいと思う場所には観光整備がほとんどなされていない」と聞くことがあります。そんなときは、私もうなずいているだけです。すむのですが、他市の人から「大館に行っても、足を運んで見るような所は無い」と言われたときには、恥ずかしさで情けなさに、いたたまれませんでした。



県指定重要文化財
北鹿パリストス正教会聖堂

観光開発は 史跡・遺跡、文化財を

観光開発と言ってもいろいろなものがあると思いますが、私は古代文化や文化財に関心したものがいいのではないかと考えます。最近、人々の観光に対する求め方が大きく変わってきているようです。観光PRにしても、史跡・遺跡や古代文化に関連したものをよく見ます。これは、先人の文化に興味をいだく人が多くなってきたことの表れだと思います。

「古代文化の偉大さや先人に

対する敬謙に打たれ、時去りしロマンを追ひ、すばらしき感動との出会いを求めようとしている」ことが、現代の観光であると考えます。

大館市には、史跡・遺跡それに文化財が数多くあります。また優れた人物も多く輩出しており、その顕彰碑がいたるところにあります。点在しているこれらを整備し、点から線へ結び付け、観光コースとしての活用ができないものでしょうか。

そうするためには、前でも述べましたが、「核となる施設」つまり「歴史民俗資料館」とか「ふるさとセンター」などの建設が不可欠です。

早急に

開発・整備を

市で策定している総合開発計画には、それらの建設が盛り込まれているとのことです。また、市教育委員会では、文化財や天然記念物の整備を進めているようです。最近新聞に載っていた「七つの驚きとロマンの里」事業や「出川のケヤキ」整備事業などがそれでしょう。

大変良いことだと思います。しかし、計画があるだけでは遅いのです。全国どの市町村でも、同じような開発・整備は進んでいるのです。今やらなければ、ほかよりも早くやらなければ

ば、「大館」の名を全国の人に知ってもらい、そして大館に来てもらうことはできないのではないのでしょうか。

専課の設置が必要

市では昨年、組織の機構改革を行い、観光や物産の開発・振興を図ろうと「観光物産課」を新設したそうです。

ふるさと創生一億円の「大滝温泉蘇生事業」は、この観光物産課と都市開発課などで行っているとのこと。文化財は教育委員会、温泉は観光物産課等々と、市の機構上分断されていたのでは、なかなか一体化した観光開発はできないような気がします。そのためには、総合的に観光を進める「専課」の設置が必要だと考えます。

行政と市民が

一体となつて

観光地に温泉は欠かせません。「出て湯の里大館」と「史跡・遺跡・文化財の里大館」が一つになつたら、本当にすばらしい観光地になると思います。

市が主体(施設建設、資源整備、道路整備など)となり、市民ができること、やるべきことは何かをみんなで考えなければならぬ、いや、やらなければならぬ、いときです。時間はありません。